

第15回

日本子ども社会学会大会

プログラム

2008

第1日/6月28日(土)

第2日/6月29日(日)

松山大学

大会の日程

前 日 6月27日(金)

15:30～17:00 会計監査（公立学校共済にぎたつ会館）
17:00～19:00 理事会（公立学校共済にぎたつ会館）

第1日 6月28日(土)

9:00 受 付（8号館4階）
9:30～12:00 研究発表（8号館5階）
12:00～12:40 総 会（8号館4階844）
12:40～13:25 昼 食
13:30～15:30 研究発表（8号館5階）
15:40～17:40 ワークショップ &
（8号館4階842・843）
18:00～20:00 懇親会（カルフルール1F 生協食堂）

第2日 6月29日(日)

9:00 受 付（8号館4階）
9:30～12:00 研究発表（8号館5階）
12:00～13:10 昼 食 評議会・各種委員会
13:20～15:20 公開シンポジウム &
15:30～17:30 ラウンドテーブル , &

各会場については、7頁をご参照ください。

ご案内

1. 会場

松山大学 文京キャンパス

(5～7頁の地図を参照してください)

2. 大会実行委員会連絡先

〒790-8578 愛媛県松山市文京町4-2

松山大学人文学部 社会学科 山田富秋研究室気付

日本子ども社会学会第15回大会実行委員会

Tel : 089-926-7074 (山田研究室)

Fax : 089-926-7074

E-mail : toyamada@cc.matsuyama-u.ac.jp

[入会および会費納入等に関する相談・問い合わせは日本子ども社会学会事務局へ]

〒658-0001 神戸市東灘区森北町6-2-23

甲南女子大学 細辻研究室気付

TEL 078-413-3007

郵便振込口座 01760-1-85048

学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jscs2/>

3. 受付

6月28日(土)～29日(日)

8号館 3階ホール

場所については6～7頁の案内図をご参照ください。

4. 大会参加費 学会員 3,000円 臨時(当日)会員 2,000円

(公開シンポジウムは無料)

5. 懇親会 6月28日(土) カルフル1F 生協食堂

一般 5,000円 大学院生 3,000円

6. 研究発表 個人(1人)発表 20分・質疑応答 5分、共同(複数)発表 40分・質

疑応答 10分とします。発表時間を厳守してください。なお、レジュ

メを用意される方は、50部程度ご用意ください。万一不足の場合、大

会本部ではコピー等いたしかねますのでご了承ください。

7. 発表取消(欠席) 発表を取消(発表者が欠席する)の場合には、大会前日(6月

27日)までに上記の大会実行委員会にお知らせください。なお、発

表取消については、学会ニュースにその旨を掲載します。

8. 当日配布資料 当日別途資料を配布される場合は、分科会名・氏名を明記し、各分科会の発表当日、早めにご提出ください。

9. クローク

6月28日(土)～29日(日) 8号館4階840教室の受付でお預かりします。

10. 会員休憩室

6月28日(土)～29日(日)両日とも8号館3階西側の学生ロビーをお使い下さい。コーヒーなどの準備があります。

8号館西隣の学生会館前に自動販売機があります。また、建物内は全面禁煙ですので、喫煙は所定の場所(学生会館1階ピロティ・2号館1階ピロティ)にてお願いします。

11. 昼食

6月28～29日は生協食堂(カルフル1F)が開いています。近隣のコンビニ、食堂なども利用できます。

12. 宿泊

学会会場の松山大学に一番近く、徒歩圏内にあるホテルは「ホテル泰平」です。<http://www.hoteltaihei.co.jp/>にアクセスしてください。別館もあるようです。

また、有名な道後温泉からも近くです。遠方からの参加の場合、航空会社とタイアップした航空チケットと温泉旅館やビジネスホテルの宿泊が一体になったパッケージ旅行商品があります。大学生協や旅行会社で購入できますので、各自で問い合わせてください。

なお、地元の旅行者としては、フジトラベル・サービスがあります。ホームページは、<http://www.fj-t.com> です。

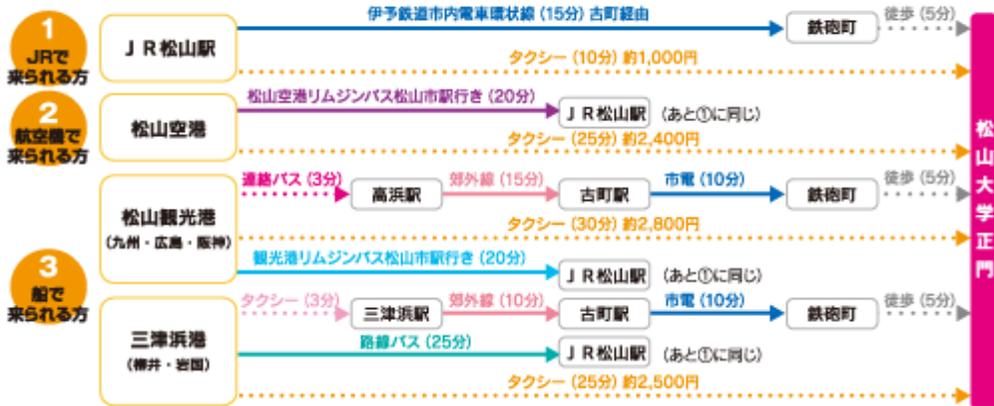
13. アクセス

学会会場までのアクセスについては、5頁をご覧ください。学会終了後の飛行機の最終便は、東京方面が19:45、関西方面が19:05、名古屋方面が20:15、福岡方面が18:50となっております。大学から松山空港までタクシーで30分程度ですので、17:30の学会終了後に空港に向かっても十分最終便に間に合うと思われれます。また広島港までの高速フェリー(スーパージェット)の最終便は、21:00となっております。

松山大学アクセスマップ



(松山大学ウェブサイト <http://www.matsuyama-u.ac.jp>)



大学構内案内図



会場案内

5 階

階段	860 評議会	859 紀要編集 委員会	858 研究発表 メディアと子ども 研究発表 児童文化と子育て 研究発表 地域の育児文化		857 研究発表 青少年 研究発表 保育と保育者 研究発表 子育て支援		階段 E V	W C
	856 大会本部	855 メディア 活用 委員会	854 共同プ ロジェクト 委員会	853 広報 委員 会	852 研究発表 親の養育行動 研究発表 幼小連携 研究発表 学校教育と仲間集団			

4 階

845 公開シンポジウム 少子化問題について現代日本の現状を問う		844 総 会		受 付	階段 E V	W C
843 ワークショップ 子ども社会とメディア研究 ラウンドテーブル 子ども学再考 研究奨励賞選考委員会 研究刊行委員会		842 ワークショップ 子どもの協同活動の ビデオ観察と解釈 ラウンドテーブル 学校裏サイトの研究				

3 階

階段		階段 E V	
W C			
学生ロビー 書籍販売		学生ロビー 会員控室	

「公開シンポジウム 「いじめ問題」の教育臨床学的研究は可能か？ - 学校現場と研究世界の開かれた対話へ - 」の会場はカルフルール3階ホール、懇親会の会場はカルフルール1階生協食堂です。

8号館西隣の学生会館前に自動販売機があります。また、建物内は全面禁煙ですので、喫煙は所定の場所(学生会館1階ピロティ・2号館1階ピロティ)にてお願いします。

研究発表

6月28日(土) 9:30~12:00
8号館5階851

- 1 理論

司会 上杉 孝實(畿央大学)・持田 良和(龍谷大学)

9:30~9:55 「『子どもの視点』による社会学は可能か」
という問いをめぐって

元森 絵里子(日本学術振興会特別研究員)

9:55~10:20 「学習」とは何だったか

河野 誠哉(東京学芸大学非常勤)

10:20~10:45 フィールドワーク研究に関する倫理と記述
- フィールドでダブルロールを担う時 -

真鍋 眞澄

10:45~11:35 ルソーの子ども観(2)

原田 彰(広島大学名誉教授)
望月 重信(明治学院大学)

11:35~ 総括討論

6月28日(土) 9:30~12:00
8号館5階852

- 2 親の養育行動

司会 深田 昭三(愛媛大学)・田中 理絵(山口大学)

9:30~10:20 幼児をもつ親の育児に関する意識
- 父親と母親の比較を中心に -

住田 正樹(放送大学)
中村 真弓(尚絅大学短期大学部)
山瀬 範子(四国大学短期大学部)

10:20~10:45 幼児のいる家庭の食教育の変化と養育者の行動

山本 信子(大阪青山短期大学)

10:45~11:10 中学受験と子育て

李 貞淑(横浜市立大学大学院)

11:10~11:35 「育児不安」に関する計量的研究の課題

池田 隆英(精華女子短期大学)

11:35~ 総括討論

6月28日(土) 9:30~12:00
8号館5階857

- 3 青少年

司会 石井 久雄(明治学院大学)・白松 賢(愛媛大学)

- 9:30~9:55 「ひきこもる若者」の社会学的研究
古賀 正義(中央大学)
- 9:55~10:20 通信制高校入学2年後の生活と変容
尾場 友和(大阪市立東淀工業高校)
南本 長穂(関西学院大学)
- 10:20~10:45 非行少年は少年鑑別所で何を学ぶのか II
- 再入少年のライフヒストリーをてがかりにして -
山内 啓路(東京少年鑑別所)
- 10:45~11:10 高校生のアルバイト経験とキャリア教育
吉田 美穂(中央大学大学院)
- 11:10~ 総括討論

6月28日(土) 9:30~12:00
8号館5階858

- 4 メディアと子ども

司会 青井 倫子(愛媛大学)・畠山 兆子(梅花女子大学)

9:30~10:20 保育者の幼児教育を助けるメディアとしての
「動く絵本」の役割

芝野 治郎(中国学園大学)
木内 菜保子(中国学園大学)

10:20~10:45 遊び込む力が知的好奇心を育む
- 感じて考えて試してみるS幼稚園の実践から -

多田 琴子(姫路市立曾左幼稚園)

10:45~11:10 保育のなかの紙芝居:「紙芝居.ネット」の構築とその役割

鬢櫛 久美子(名古屋柳城短期大学)
種市 淳子(名古屋柳城短期大学)

11:10~ 総括討論

研究発表

6月28日(土) 13:30~15:30

8号館5階851

- 1 家族・友人関係

司会 南本 長穂(関西学院大学)・西田 忠男(島根大学)

- 13:30~13:55 きょうだいで「不登校」を経験した家族
菊地 千夏(北海道大学大学院)
- 13:55~14:20 きょうだい関係と友人関係における自他のとらえ方の研究
磯崎 三喜年(国際基督教大学)
- 14:20~14:45 思春期の「キレル」現象の特徴
- 仮説的定義と質問紙調査の結果より -
長櫓 涼子(聖和大学)
- 14:45~ 総括討論

6月28日(土) 13:30~15:30

8号館5階852

- 2 幼小連携

司会 三宅 茂夫(神戸女子大学)・堀越 紀香(大分大学)

- 13:30~14:20 互惠性を中心とした幼小交流 II
淀澤 勝治(兵庫教育大学)
岩木 和子(市川町立鶴居幼稚園)
梶原 史(市川町立鶴居幼稚園)
城井 美香(市川町立鶴居小学校)
- 14:20~15:10 保育所と小学校の連携を巡って：実態と今後の方向
松寄 洋子(埼玉学園大学)
堀田 正央(埼玉学園大学)
無藤 隆(白梅大学)
- 15:10~ 総括討論

6月28日(土) 13:30~15:30
8号館5階857

- 3 保育と保育者

司会 小嶋 輝美(徳島文理大学短期大学部)・中坪 史典(広島大学)

- 13:30~13:55 子育て学再考
深作 拓郎(法政大学非常勤)
- 13:55~14:20 保育者のライフヒストリーに関する研究
上田 敏丈(中国学園大学)
- 14:20~14:45 子どもの生活と保育を支える保育者の役割
- 先人の保育者論にみる保育者の役割・資質 -
小林 みどり(兵庫教育大学附属幼稚園)
- 14:45~ 総括討論

6月28日(土) 13:30~15:30
8号館5階858

- 4 児童文化と子育て

司会 川北 典子(平安女学院大学)・堀田 穰(京都学園大学)

- 13:30~13:55 「児童文化」の授業はどうあるべきか
- 保育技能の向上を目指した実践から -
湯地 宏樹(比治山大学短期大学部)
- 13:55~14:20 プランゲ文庫(占領期資料)から見た紙芝居論議
鈴木 常勝(立命館大学非常勤)
- 14:20~ 総括討論

ワークショップ

6月28日(土) 15:40~17:30
8号館4階842

ワークショップⅠ：子どもの協同活動のビデオ観察と解釈

幼稚園や保育園における子どもの協同活動の研究に、ビデオ観察が導入されて久しい。ビデオ記録によって詳細な観察が可能になったが、それをどのように解釈していくかについて、実際の研究の第一線にいる研究者に、ビデオ記録を提示しながら発表してもらおう。

登壇者の一人には、子どもたちが協同することで、刻一刻と世界が構築されていく様子を詳細に呈示していただき、もう一人にはジェンダーの視点から、子どもたちの相互行為をビデオ映像に沿って示していただく。

司 会 青井倫子(愛媛大学)

登壇者 (1) 子どもたちの協同の現場から

松本 健義(上越教育大学)

(2) ジェンダーの視点から

藤田 由美子(九州保健福祉大学)

コメンテーター 麻生 武(奈良女子大学)

ワークショップ : 子ども社会とメディア研究

子ども社会研究では、メディアが分析資料や分析対象として取り上げられることが少なくない。しかし、『子ども社会研究』第10号の「子ども社会研究の可能性 歴史・メディア研究の立場から」において指摘されているように、これまでの子ども社会研究では、分析対象となるメディアに偏りがあり、また、分析手法も限られたものに過ぎなかった。子ども社会を読み解くには、メディアをさらに多様な視点から分析する必要がある。

とくに現代社会は多様なメディアが氾濫し、子どもの生活はメディアに浸されているとも言える。テレビ、新聞雑誌、書籍、音楽などからビデオゲーム、マンガ、さらには携帯電話やインターネットなど多様なメディアが子どもの生活を取り巻き、いたるところで子どもたちはメディアと接触している。子どもの遊びはメディアによって様々な形で規定され、それが子どもたちのライフスタイルを形成するとともに、交友関係や家族関係などの相互作用を生み出している。また、その一方で、メディアがとくに青少年の社会化に大きな影響を与えるというメディアをマイナス面でとらえる考え方も古くから浸透している。このようにメディアは現代社会の大きな構成要素の一つであり、いかなる立場から子ども社会にアプローチしようとしても無視し得るものではないと言っても過言ではなからう。

このような問題関心により、本ワークショップでは、多様な視点でのメディア研究の可能性について探る。パネリストによる、メディアの理論的研究、実証的研究、質的内容分析など多様な視点にもとづいた報告をもとに、子ども社会研究とメディアとの関係を議論したい。

司	会	作田 良三 (松山大学)
パ	ネ	西本 裕輝 (琉球大学)
リ	ス	吉岡 一志 (広島大学大学院)
ト		山田 浩之 (広島大学)
コ	メ	原田 彰 (広島大学名誉教授)
メン	テ	
ター		

- 1 保育実践

司会 古賀 松香(四国学院大学)・日浦 直美(聖和大学)

9:30~9:55 保育実践における空間と時間の分析方法
- blurring the borderline の視点から -

萩原 元昭(埼玉学園大学)

9:55~10:45 人形劇「なかよし」に関する考察

棚橋 美代子(京都女子大学)

米谷 淳(神戸大学)

向平 知絵(京都女子大学大学院)

10:45~11:35 親と子のコミュニケーションを深める取り組み

想厨子 伸子(中京女子大学附属幼稚園)

加藤 道子(中京女子大学附属幼稚園)

米谷 淳(神戸大学)

棚橋 美代子(京都女子大学)

11:35~ 総括討論

- 2 学校教育と仲間集団

司会 森 繁男(京都女子大学)・木村 敬子(聖徳大学)

9:30~9:55 教師と児童生徒のとらえる教室内のジェンダー関係

中澤 智恵(東京学芸大学)

9:55~10:20 授業中のグループ形成 - 仲間集団の境界をこえる授業 -

池田 曜子(奈良女子大学博士研究員)

10:20~11:10 子どものケータイと学校の「学校裏サイト」対応
に関する学会共同全国調査

1. 学校調査を中心に

調査の経緯

高旗 正人(中国学園大学)

サンプルの属性と生徒の生活

三枝 恵子(東京成徳大学非常勤)

管理職が把握する「学校裏サイト」とケータイの現状、
及び学校側の対応

須田 康之(北海道教育大学旭川校)

2. 生徒調査を中心に

生徒調査にみるケータイと「学校裏サイト」の現状

深谷 和子(東京成徳大学)

「学校裏サイト」問題と地域及び生徒の意見

西本 裕輝(琉球大学)

総括

深谷 昌志(東京成徳大学)

11:10~ 総括討論

6月29日(日) 9:30~12:00
8号館5階 857

- 3 子育て支援

司会 萩原 建次郎(駒沢大学)・上田 敏丈(中国学園大学)

9:30~9:55 ソーシャル・キャピタルと子育て支援

齋藤 克子(佳津子)(京都女子大学大学院)

9:55~10:20 生きる力を育む場としての「放課後子ども教室」の可能性(1)

高橋 健介(宝仙学園短期大学)

請川 滋大(日本女子大学)

滝澤 真毅(山形短期大学)

結城 孝治(國學院短期大学)

10:20~10:45 教育の場としての学童保育についての一考察

三好 正彦(京都大学大学院)

10:45~11:35 「子育てネットワーク」活動における効果と課題 - 調査票における自由記述とインタビュー内容の質的検討 -

中谷 奈津子(中京女子大学)

越智 紀子(関西福祉科学大学非常勤)

橋本 真紀(聖和大学)

西村 真実(大阪成蹊短期大学)

相戸 晴子(九州大学大学院)

山縣 文治(大阪市立大学)

11:35~ 総括討論

6月29日(日)9:30~12:00
8号館5階858

- 4 地域の育児文化

司会 渋谷 真樹(奈良女子大学)・松澤 員子(神戸女学院大学)

9:30~9:55 中国の道德教育と子どもの道德的社会行動の調査研究

伴 恒信(鳴門教育大学)
押谷 由夫(昭和女子大学)

9:55~10:20 産育の民俗技法における変化の多層性
- 中国ウイグル社会の揺籃をめぐって -

坂元 一光(九州大学)

10:20~10:45 地域伝統芸能を通した子どもの育成

春日 清孝(明治学院大学非常勤)

10:45~ 総括討論

公開シンポジウム

6月29日(日) 13:20~15:20
カルフル 3F ホール

テーマ

「いじめ問題」の教育臨床学的研究は可能か？

- 学校現場と研究世界の開かれた対話へ -

趣 旨

「いじめ」が教育問題・社会問題化されて久しく、教育学や社会学の領域を中心に研究も蓄積されてきた。にもかかわらず、近年のいじめの痛ましい報道にも見られるように、学校現場では依然として混迷が続き、それらの報道の多くでは「学校(管理職・教師)」の指導体制及び指導力の問題として原因が構成されている。この学校の混迷に研究世界はどのような手を差し伸べているのだろうか。研究の様々な蓄積や提言も、学校現場には、「所詮、机上の空論」としか捉えられていないのではないだろうか。

この事態を前に、学問研究の世界と学校現場の世界との対話をどのように増やしていけばよいのか、この問題関心が本シンポジウムの出発点である。「いじめ問題」を、学校現場の問題として切断して考察するのではなく、「いじめ問題」を社会のメンバーである我々全員の問題と受け止めることによって、よりよい解決の道を模索したい。そして、シンポジウムを通して、臨床学的研究の必要性が強く論じられている今、いじめ問題を事例として実践現場と研究世界の対話の可能性を開きたいと考えている。

そこでまず実践現場の立場から、「いじめ解決に向けた実践現場の取り組みの事例」や「いじめ解決の困難さ」の要因を話題提供する。次に量的研究の立場から、これまでの「いじめ」に関する調査研究の整理から、実践現場との対話の可能性と課題について話題提供する。さらに質的研究の立場から、「定義問題としてのいじめ」という観点で、実践現場との対話の可能性と課題について話題提供する。その後、指定討論者から各シンポジストへの討論を行い、議論を深めていきたい。

司 会：太田 佳光(愛媛大学)

シンポジスト：

- (1)実践現場の立場から 山内 孔(松山市立南第二中学校)
- (2)量的研究の立場から 久保田 真功(富山大学)
- (3)質的研究の立場から 白松 賢(愛媛大学)

指定討論者：古賀 正義(中央大学)

公開シンポジウム

6月29日(日) 13:20~15:20

8号館4階845

テーマ

少子化問題について現代日本の現状を問う

趣旨

少子化という言葉は学術用語ではなく、もともと政策上の課題とマスコミ報道との相乗効果により一般化した言葉です。新しい学力観という言葉と同様に、実際には異なる現実をあたかも共有しているかのごとき論議が横行しています。そのため、さまざまな立場の専門家の集まりである子ども社会学会で、少子化という言葉を用いて描かれる子どもとその生きる場の現実の変化を整理する必要があります。

その一例として、子どもの育ちにとって、現実に行進する保育施設での時間の増加があります。沖縄と東京の比較で指摘した出生率の差の決定的な要因は保育施設の量と質でした。7割のこどもが通園可能な沖縄と3割しか入れない東京では、出生率に差が出るのが当たり前ということです。しかし、だれもこのことを指摘しません。何よりも、政府の少子化対策の項目のなかに待機児童解消はあっても、保育園の目的を規定する児童福祉法の「保育に欠ける」という前提を崩していません。保育園は、母親が働くことによって保育に欠けるかわいそうな子どもを保護する施設。母親が仕事をもたずに育てるのが正しい子育てという前提です。

現実には、子どもの総数が減少しているにもかかわらず、保育園に通う子どもの人数はどんどん増加しています。待機児童を收容するために施設や定員を増やせばふやすほど、待機児童数が増えるという経験に苦慮する(した)行政が少なくないはず。子どもの多数派が、保育園に通う社会に変化しています。しかし、法律は依然として「保育に欠ける」という前提ですので、幼児教育は幼稚園という立場を崩していません。子ども社会学会には、保育関係の研究者が多く所属していますので、一般論ではなく、現在と未来の日本社会において、幼稚園システムと保育園システムのどちらを優先すべきかを論じることは可能だと思います。あるいは、保育園と幼稚園で育つ子どもを、その親の状況との関連を考慮する観点から実証的に問うことは必要と考えます。

司 会： 望月 重信(明治学院大学)

シンポジスト：

支援リーダーの立場からの現場報告と問題提起

中橋 恵美子(NPO法人わははネット)

沖縄の高い出生率の背景と課題

馬居 政幸(静岡大学)・長浜 ひろみ(沖縄県西原町議)

指定討論者：渡辺 秀樹(慶応大学)

ラウンドテーブル

6月29日(日)15:30～17:30

8号館4階843

ラウンドテーブル

テーマ： 子ども学再考

司会者： 高旗正人（中国学園大学）

話題提供者：

児童文化研究者 加藤理（東京成徳大学）

児童文化学・教育社会学 湯地宏樹（比治山短期大学）

指定討論者： 川勝泰介（京都女子大学）

内容： 近年、子ども学部や子ども学科の新設が続いているが、その中で、子ども学と呼ばれているものの内容はどのようなものなのか。また、それは従来、児童文化学あるいは子ども文化の研究として展開されてきた研究領域とどのような関係があるのか、このテーマについて自由に論じていきたい。

このラウンドテーブルでは、児童文化あるいは「子ども学」の視点から話題を提供し、さらに「子ども学」を志向すると同時に教育社会学的視点から見た考え方を提供することによって、制度的な看板としての子ども学の可能性を探る。

6月29日(日)15:30~17:30
8号館4階842

ラウンドテーブル

テーマ： 学校裏サイトの研究

司会者： 山縣 文治（大阪市立大学）

話題提供者： 小針 誠（同志社女子大学）
中田 周作（中国学園大学）

内容： 「学校裏サイト」の問題は、学校におけるイジメ問題と、新しいメディアの利用に関する規範意識および、その特性に起因する極めて古くて新しい課題である。

この問題の焦点は、イジメの問題においてであると考えられる。つまり「学校裏サイト」が、イジメの新しい手段となっているのである。こうしたメディアは匿名性が高く、かつ高い伝播性を持っているため、イジメの手段としては、極めて陰湿で卑劣なものとなる。

ゆえに現代社会においては、最も緊急を要する教育課題であると位置付けられる。しかしながら、ここでも括弧付きで「学校裏サイト」と記述しているように「学校裏サイト」は、サイト（ホームページ）の形式に限定されない。また、これは単に電子メールを含むという意味で限定的に捉えるべきではない。むしろ、実態が極めて多様であるために、一括して「学校裏サイト」と称しているにすぎない。

今回のラウンドテーブルでは、こうした「学校裏サイト」の実態や、それらを実際に把握する方法、また「学校裏サイト」の結果としてイジメ問題など多面的に議論する。そして最終的には、学会の共同研究へと発展するよう検討する。

6月29日(日)15:30～17:30

8号館4階841

ラウンドテーブル

テーマ：ビデオ援用に基づく実践と研究の対話：保育者の語りに見る専門的見識

司 会： 藤田由美子（九州保健福祉大学）

話題提供者：

中坪史典（広島大学大学院教育学研究科附属幼年教育研究施設）

岡花祈一郎（広島大学大学院教育学研究科博士後期課程大学院生）

指定討論者：

小田豊（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

内容：

- (1) 私達（提案者）はいま、ビデオカメラを用いて、保育者の専門性を言語化する試みを模索している。例えば、日々幼児と関わる保育者の言動は瞬時の状況判断であり、文脈依存的である。おそらく保育者は眼前の幼児の表情や動き、保育者の中にある“その子”の理解、類似の状況における過去の経験などを駆使しながら、援助したり、見守ったり、言葉をかけたりするのだろう。そうした保育者の中の専門的見識を研究者が取り出し、記述することができないだろうか。これが本研究の出発点である。
- (2) 私達（提案者）は、保育者の関わりの背後に埋め込まれた専門的見識を描き出す方法として、映像メディアに注目した。例えば、ビデオカメラはフィールドワークにおけるデータ収集の道具として機能する。映像人類学的アプローチに基づくならば、ビデオクリップという一つの作品を通して、保育者の専門性を表現することもできるだろう。さらにその映像は、実践と研究の対話をも引き起こすことにも繋がる。ビデオ映像から引き出された保育者の語りは、豊かな知恵と経験に溢れている。
- (3) 以上の点から、ラウンドテーブルでは保育者の専門性、ビデオ援用に基づく実践研究の在り方、実践者と研究者のコラボレーション、映像メディアをめぐる新たな研究方法の可能性と課題などを討論の軸としながら、提案者、指定討論者、参加者の間の交流を行いたい。

日本子ども社会学会 第15回プログラム

発行 2008年5月

発行者 日本子ども社会学会 第15回大会実行委員会

委員長 山田 富秋（松山大学）
委員 作田 良三（松山大学）
太田 佳光（愛媛大学）
青井 倫子（愛媛大学）
白松 賢（愛媛大学）

大会実行委員会連絡先

〒790-8578 愛媛県松山市文京町4 - 2

松山大学人文学部 社会学科 山田富秋研究室気付

日本子ども社会学会第15回大会実行委員会

TEL : 089-926-7074 (山田研究室)

FAX : 089-926-7074

E-mail : toyamada@cc.matsuyama-u.ac.jp